

sponsored by Panasonic

P2HD 特集④

コスト削減と効率化を実現したCATV

地域密着型コンテンツをHD化

CATV業界は、F-TTHや衛星放送などと競合するなか、地域密着型コンテンツの充実をさらに図るべく、制作のHD化へ動き出した。しかし、業務用DV機器が普及したため、上位の放送機器でノンリニア・コストを上げることが難しくなっている。少人数態勢も多く、効率化も求められている。テープレス制作によって、コスト削減と効率化を実現したCATV事業者を追った。

知多メディアネットワーク

「身の丈に合うHD化を実現」

知多メディアネットワーク 部長は「5年ほど前に先行してHD化した大手事業者はHD化を推進しているが、当社のような中堅ラジオ・テレビチャンネルのHD放送を開始した。P2HDカメラレコーダー「AJ-HPX2100」を導入し、初期投資額やランニングコストの面で難しさを克服した。当社の場合、身の丈に合ったHD化が実現できると考えた」と話す。



山本氏。スタジオにもENG兼用でAJ-HPX2100が1台設置されている

（P2カム）5台をはじめ、メモリカード・レコーダー「AJ-HPS1500」（P2デッキ）1台、モバイルレコーダー「AJ-HPM100」（P2モバイル）1台、P2カード75枚（16ギガ×50、32ギガ×25）を導入。ENGのHD制作を中心に運用する。CATV業界でHD化への取り組みが早かった東海地区において、同社は地区コンテツ部の山本隆明副

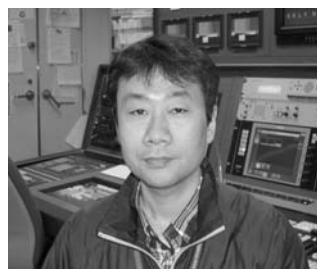
大分ケーブルテレコム

取材、スタジオ番組でフル活用

「トータルコスト抑えた」

大分ケーブルテレコム 現在は第2期計画が終了した。スタジオと副調整室（ミキサー）のHD制作を開始。スタジオカメラやサブ出しにP2HDを使用し、効率の良い制作体制を採っている。

同社は地上波のデジタル化に伴い、「地域密着型メディアとして多くの市民を紹介するコミニティHD化すべき」として、06年度から3カ年計画に着手。第1期となる同年は、取材・編集システムに、DVC PRO HDのカメラとVTR、Mac G5を各1式導入し、一つの番組で試験と



大久保氏



スタジオ・サブに設置されているモバイルレコーダー

トースムを使用

副調整室では、リピー

08年度には、HD対応の

田氏は「初期ロットの導入

キャッチネットワーク

テープレスが可能にしたHD化

「32ギガカードの発表が決め手」



松本氏と武田氏

キャッチネットワーク（愛知県刈谷市）は07年10月、P2HDカメラレコー

「CATVが他業種と競合

放送・保存用としてDVC

のアーカイブシステムに保

「他社製とも比較

「CATVが他業種と競合

放送・保存用としてDVC

のアーカイブシステムに保

共同研究会」というミ

「CATVに合ったシステ

の1つとして、番組のHD

ユース取材と使い分け

レスが一気に軽減でき



P2camを担ぐ武田氏

編集後のデータは、ネットワ

編集機にはすべ